

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0891700171		
法人名	社会福祉法人心和会		
事業所名	グループホーム福祉の森		
所在地	茨城県取手市野々井1613-1		
自己評価作成日	2020年6月20日	評価結果市町村受理日	2020年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2020年8月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>今年に入り、徐々に身体的に重い利用者様が退所され、元気に歩かれている方が増え、毎日エンタランスで体操をしたり、お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、少しずつ活気のあるホームになってきたかなと思います。現在、コロナウイルス感染防止でご家族の面会を控えているため、面会や外出が出来ないのですが、ほぼ毎日ご家族と電話でのやり取りがあり、安心して過ごして頂いていると思います。職員もパズルやすごろくを手作りして日中楽しく過ごせるように工夫しています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p></p>
---------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場面等で、繰り返し管理者が理念を説いている。職員それぞれが理念を念頭におき責任を持ってサービスに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加するなどして、地域の方々と交流している。利用者と散歩中、地域の方々と、声を掛け合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの来所時や外出の際に、認知症の方を理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況を報告し、意見交換をしている。特に、地域包括からの出席者からの情報は、利用者の家族からの相談、助言に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、市役所の高齢福祉課、社会福祉課とは、相談や指導を受けている。情報交換を行い、連携は取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護者、全員出席のもと、事例ごとに都度話し合っている。また、運営推進会議の場でも検討委員会を設けていた。現在は、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は言外であるが、言葉使い等、見過ごされ勝ちな人権尊重に反する行為についても注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会には、参加を促している。支援が必要な場面では、関係者に問い合わせながら活用出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には時間をかけている。お茶を飲みながら、雑談する等、相手が不安や疑問点を尋ねやすい雰囲気作りを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が、意見や要望を話しやすい様に、日ごろから、開かれた施設を目指している。家族の思いに寄り添った支援を行う様、職員と話し合い、改善している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場だけでなく、職員はいつでも意見を述べ易い職場となっている。管理者は、職員の意見や提案を、よく聞いて、取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇については、出来る範囲で改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の取得を推奨している。各種の研修は職員が順番に参加できるように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会等に参加して、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いをよく聞くことは言うに及ばず、言葉に出来ない思いをくみ取る努力をしている。また、本人と波長を合わせて、安らげるような声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	明るく、誠実に対応する様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験を積んで、本人と家族の今の課題を見極めるスキルを磨いている。当ホームに入居を勧めるだけでなく、小規模多機能型や短期入所等を提案し、それらの事業所とをつないでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を、人生の先輩として敬っている。そして、本人が今までの生活で培ってきた技術や経験等を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を折に触れ伝えている。受診や外出、自宅への同行等、出来る限り、家族対応にしている。本人と、家族との関係が希薄にならない様に、気配りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こだわりのある利用者には、家族に連絡して、馴染みの美容室に連れて行ってもらっている。友人、知人の面会時はゆっくり過ごせるよう、お茶を出すなどのセッティングをしている。また、訪問し良い雰囲気作りに気配りしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクレーションを合同で行う場面を設けている。感染症が無い場合は、自由に両ユニットを行き来し、お茶を飲んだり、話したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、当ホームに戻ることが出来なくなった利用者の行く先について相談に乗っている。亡くなった利用者の家族が来訪した場合は、思い出を語り合っている。殆どの場合、葬儀に出席している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方との会話は、相槌だけとなることが多いが、表情の変化を見逃さないようにしている。そして、生活歴等からも、暮らし方の希望を把握するようにしている。本人中心で、家族との意向とすり合わせている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、聞き取った生活歴は都度、記録に残している。サービス事業者からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者全員、健康チェックを行い、記録している。水分、食事、排せつ、過ごし方等、観察して記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では、全職員が気づきや意見を述べている。軽微な状態変化のあった、利用者については、毎日の申し送り時に話し合っ、ケアの変更をしている。そして、家族に報告、相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々の利用者の記録を付けている。毎日二回の申し送りと、月1回程度のユニット会議で、情報の共有をしてケアの実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	移送サービス利用の支援。訪問理容、美容。家族が泊まったり、家族の面会が食事時になった場合は、おにぎりや味噌汁を提供した。面会時間は、自由になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一時でも、利用者が楽しく過ごせる様に、職場体験実習性や芸能ボランティアを受け入れている。町内の方々、消防、警察とも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合は継続してもらっている。他に当ホームの主治医に、月2回往診を依頼している。そして入院や療養の指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他、24時間電話対応により、相談、助言が得られている。また、臨時の訪問も受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医師会主催の勉強会に参加して、馴染みの関係が出来つつある。入院時は、必ず情報提供を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と何度も話し合い、互いに出来ることを確認し合う。主治医、訪問看護とも連携を取り、チームで看取りの支援を行った。(二例)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を全職員が受けている。意識喪失やのど詰まりの場面しばしばあったが、職員の実践力が在った為、大事には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、消防署の協力のもと避難訓練を行っている。食材や水の備蓄もある。近隣の住民に避難時の協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、価値観を尊重するため、まずは、言葉使いに注意を払っている。為りがちな馴れ馴れしい言葉かけにならないように、職員間で戒め合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者は気持ちにゆとりを持つようにして、利用者の気持ちをじっくりと聞いて、簡単な対応で済ます事の無いように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の大まかな日課はあるが、利用者の体調や気分を考慮して、無理強いのない様に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は季節ごとに入れ替え、毎日、本人の気分で選んでもらっている。化粧は、自由にしてもらっている。化粧落としは、声掛けして手伝っている。定期的に美容師が来訪して、本人希望の髪形にカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事形態を把握しており、工夫している。出来る範囲で、利用者が、下ごしらえや片付けを職員とともにやっている。季節感を大事にして、誕生日や行事食は、特別メニューとなっている。時々リクエストに応じている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を把握して記録している。持病や、体重の増減、食事形態等、個々の状態を考慮して、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアの見守りやでない部分の介助をしている。訪問歯科の口腔ケアを受けている利用者もある。その際、職員も指導を受けて支援に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方は綿パン使用している。体調不良時は、リハパン使用を促し、不安なく、安眠出来るように支援している。リハパン、パット使用者には、時間を見計らい声掛けトイレ誘導し、失禁の場面を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを記録して、把握し、飲食物の工夫や運動への働きかけを行っている。また、主治医や訪問看護と相談、指示により、薬剤による、排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、失禁の場面が見られた場合のシャワー浴や、強い拒否がある場合は、無理強いしない等、臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や自室のソファで、自由に休息をとってもらっている。体調の悪い方には、声掛けや介助をして、臥床を促している。寝具は常に清潔に保たれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬の主な効能を把握している。不安な時は、効能書きで確認している。複数回服薬内容を確認して誤薬の無い様になっている。最近では誤薬や、薬を床に落とす場面は見られていない。薬疹が疑われるときは、受診の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いのない様に、個々の能力に応じた役割を提案している。また、日ごろから、好きな物や、興味のあることを聞き出し、行事や誕生会に趣向を凝らし、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、近隣の散歩をしている。家族には、ドライブや、散歩の同行を勧めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は、自分でお金を使う機会が無い。少額の現金を渡している家族は、3名あり。他に、多額の預金通帳を持っている方が1名あり。今後は、訪問販売の導入や、買い物同行の支援を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次ぐことは、もちろん、本人が希望したり、折を見て、施設のほうからも、電話をかけて、家族と話してもらっている。家族からの手紙は、手渡すだけでなく、読んで内容を何度も説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折々の季節の飾り付けを、玄関やホールにしている。安全で居心地の良い空間作りを心掛けている。掃除は一日に数回行い、清潔で、嫌な臭いの無い居場所を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い南側に、三人掛けソファを置いている。眺めの良い、ベランダ側に、椅子を置いている。事務所のテーブルは、利用者が自由に出入り出来、お茶を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	数名の方は、在宅時使用していた、椅子や机を持参している。一人になりたいとき、自室でラジオを聴いている方もある。家族写真や、壁飾りで癒されている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で衣類の整理が出来るように、引き出しに、大きな字で分類ごとのラベルを貼った。自室が分からない利用者には、入口に、各々色分けした、表札を付けた。		